

第8次刈谷市総合計画（案）に対する議会からの意見

基本構想(案)に対する意見

No.	ページ	区分	意見
1	1	1 計画の意義と特徴	第7次総合計画の総括(反省と課題)と第8次総合計画への反映すべき点を示すべきではないか。
2	1	1 計画の意義と特徴	東日本大震災・福島原発事故を経験し、価値転換が起こっているが、第7次は震災前に基本策定している。今回は、その後の価値観の変化も加味することが求められる。しかし、その認識が弱いと感じる。後半の部分にその点の記述があるが、現状はもっと危機的な状況であることを認識するべきである。
3	5	3 時代の潮流(計画策定の背景)(2)	「生涯現役社会」と言われても、年金削減、消費税増税、インボイス制度、後期高齢者窓口2割負担、介護保険制度の更なる改悪の検討など、社会保障が現在の高齢社会に比し削減されているので、本当に立ち行かない状態になっている。「生涯現役」は、生活が苦しいから生涯働かないと暮らせないということを連想させるまでになっている。この単語はやめた方がよい。
4	5	3 時代の潮流(計画策定の背景)(3)	「持続可能な社会SDGsの実現～この記述は正しい。一時期、日本独自のSDGs構想なるものが政府から出されたが、全く日本の施策に合わせたもので、役に立たなかった。今回は、特に後半の部分の考え方は、SDGsの基本になるので、これを基調にすることがよい。
5	5	3 時代の潮流(計画策定の背景)(3)	「貧困対策やジェンダー平等の実現など、経済・社会・環境の側面のバランスが取れた社会」→「貧困対策やジェンダー平等の実現などにより基本的人権が尊重され、経済…」と追記する。現行の文章だけでは貧困と性差別の何が問題なのか見えにくい。
6	6	3 時代の潮流(計画策定の背景)(5)	リニア中央新幹線にあまりの過大な期待はやめた方がよい。それより、地域内循環・定常型社会・社会連帯経済など、新しい枠組みでのまちづくりが世界で広がっている。先進地の刈谷市はそういう点でもチャレンジャーであってほしい。
7	7	3 時代の潮流(計画策定の背景)(7)	「安心安全」について～今日的に、地球環境破壊による「気候危機」、日本な25年間も実質賃金が低下している「経済の危機」「諸物価高騰による暮らしの危機」「激化する災害の危機」など危機に直面することが多い。経済で言えば、GDPの半分を占める消費支出が健全化することが危機を乗り越える強い経済である。「新たな危機に備える対応力を強化」するより、危機に強い社会を日常的につくる視点が必要である。そして、順番を変えて「安全・安心」が本来である。安全だから安心するのである。
8	7	3 時代の潮流(計画策定の背景)(7)	「近年では、グローバル化の進展に伴い…「安心安全」な暮らしを維持するための必要な措置を講じる必要があります」を一旦削除する。この1文に関する具体的な施策が見えてこないし、外交・防衛要素が強い文章となっているため、国の施策ではないかと感じてしまう。地方自治体で取り組めることは、日本国憲法を活かし、平和施策を推進し、市民が世界平和を希求し、人権を尊重するまちづくりである。そのような内容に変更する。例)近年、各地で起きている紛争や世界情勢の緊張が高まる中、「安心安全」な暮らしを維持するためには、何よりも平和な国家でなければなりません。そのためには、日本国憲法に基づき、多様な主体が世界平和を希求し、人権を尊重するまちづくりが必要です。
9	7	3 時代の潮流(計画策定の背景)(7)	デジタル技術の発達に伴う、サイバーセキュリティや情報セキュリティの必要性について盛り込む。
10	8	4 刈谷市の現状と特性把握(1)	古代の遺跡と一言ではなく、「重原荘」は戦国時代前にあり、かなり広い地域を治めていた。この点も記述してもよいのではないか。
11	9	4 刈谷市の現状と特性把握(2)	刈谷市の特性に人口の内容しか載っていないが、様々な側面を載せるべきではないか。
12	14	5 まちづくりの主要課題(1)	(1) 将来的な人口構造の変化への対応 超高齢化社会への対応などとした方がいいのではないか。
13	14	5 まちづくりの主要課題(1)	(1)将来的な人口構造の変化への対応～「福祉関連施設の充実などが必要」とあるが、全国では32万人の介護職が不足して、施設を作りたくても介護職員が不足して満足にできない。もう介護保険ができ22年。その現状を直視し、まず人の育成や確保を真剣に考え、構想にしっかり入れるべきです。

No.	ページ	区分	意見
14	14	5 まちづくりの主要課題(2)	刈谷市内は、市内の主要地域をトヨタ関連企業が存在しているので、土地が少なく、住宅も大変高価で近隣市へ流れてしまう。市営住宅を戦略的に作り、市内に居住できるようすべきである。特に、太陽光発電システムを設置して、ZEBを目指すなど高齢者と若者、子どもが共存して生活できるようなまちづくりをすべきである。また、商店も商いが難しいので、商店街も東北の陸前高田市を参考に新たに構想するなどして、「暮らし」ができるまちづくりを目指すことが暮らし続けられるまちになる。
15	14	5 まちづくりの主要課題(4)	(4)次代の担い手の確保 今後も将来にわたって持続的な発展を続けていくためには、産業分野・地域社会ともに、新たな担い手の確保や人材育成に取り組む必要がある。と書かれているが、何をしようとしているのかお聞かせください。 全国の中から、刈谷市のものづくりに、優れた人材が集まる現状では、学力やスポーツなど、教育を強化し、将来社会で活躍できる教育環境を目指す、それが、子育てする世代が、刈谷市での居住を選択することにも繋がるのではないかと。
16	15	5 まちづくりの主要課題(5)	「そのため、これまで進めてきた公共施設・・・」→「そのため、多様な主体との連携を深め、これまで進めてきた公共施設・・・」最後から2行目の「多様な主体との連携を深め」を冒頭の方に持ってきた方が、自治基本条例の理念を反映させられる。
17	15	5 まちづくりの主要課題(6)	デジタル化の推進に伴い、反作用として個人情報の流出のリスクも高まることが想定されます。そのあたりも主要課題として記載したほうが良いのではないのでしょうか。
18	15	5 まちづくりの主要課題(7)	「市民発電所」の設置を。特に太陽光システム(パネル、蓄電池、リレー等)を無料または廉価で設置可能な打ち出しをして一気に市内へ広げる。市民からの電力を売り、収益は各市民へ還元。還元する際は「地域内通貨」や「地域商品券」などとして電気の地産地消と地域内経済の循環を目指す。環境庁のリーポスでもまだ刈谷市のポテンシャルは高い。
19	15	5 まちづくりの主要課題(8)	モノづくりの工業用地だけに特化するのではなく、歴史的な景観を大切にすため「景観条例」をつくり、景観を保ちながら新しい事業が起こるような「場」を創ってゆく。そのような視点で用地の確保も考えた方がよい。
20	17	2 まちづくりの指標	街づくりの指標で、2042年158000人を目指す(2032年156,100人)。目標値としての確からしさをどう理解すれば良いのか。大チャレンジなのか、べき論なのか、可能な最大限なのか。居留意向の2042年目標90.0%は第7次総合計画では2030年の目標であったはずである。
21	17	2 まちづくりの指標	市民満足度は、このアンケート結果で測って、効果が判断できるのか？ 居留意向の目標は第7次総合計画と同じ数値、(87.5→90.0)目標人口を達成する為、特に、子育て世帯の居留意向を高める刈谷市の目標値として低すぎないか
22	18	3 土地利用構想	最初の段落で「都市の質的成長へと転換していく必要があります」とありますが、第7次総合計画でも使用されているフレーズです。「転換」ではなく、「推進」などの文言の方が適切ではないのでしょうか。
23	18	3 土地利用構想	「状況の変化を好機と捉え、様々な課題に適切に対応するため、選択と集中による集約型の都市づくり」は、今後不確実性・複雑性の時代にあって、かつての「選択と集中」「コアコンピランス」は時代とは合わないのではないかと。地域の諸課題をみんなで寄ってたかって解決する時代ですので、包摂的な仕組みを考えることが必要。
24	18	3 土地利用構想	■自然的土地利用の方向性の枠内の「農地の多面的な役割」について、具体的に書き出す。「環境保全、教育、保健・福祉・レクリエーション、防災、歴史・景観形成など様々な役割を持っています」
25	18	3 土地利用構想	■自然的土地利用の方向性の枠内の「河川及びため池などの水辺の役割」について、もう少し具体的を持たせる。「生物多様性または環境保全、かんがい、洪水調整」
26	18	3 土地利用構想	「選択と集中による集約型の都市づくりを継続して進める」の「選択と集中」をカットする。その後の「住宅地や工業地などの都市的土地利用を適切に配置し」や、その下の■都市的土地利用の方向性の枠内に「選択と集中により適切に配置し、地域特性に応じた・・・」と記載があることで十分説明できている。

No.	ページ	区分	意見
27	19	4 まちづくりの基本方針と施策の体系	基本方針2の内容がわかりづらいかと思います。「確かな学力の定着」は、いわゆる知識を定着させるということなののでしょうか？また、「家庭、地域との連携」に学校は含まれるだろうと思うのですが、記載した方が明確かと思います。
28	19	4 まちづくりの基本方針と施策の体系 基本方針2	「家庭、地域との連携による質の高い教育を進め」→「地域全体ですべての児童生徒が生き生きと輝く学校づくりを進め」
29	19	4 まちづくりの基本方針と施策の体系 マネジメント方針	「持続的」ではなく「持続可能な」に変える。『「持続可能な」まちの発展を支える行財政運営』の方が、明確になる。
30	19	4 まちづくりの基本方針と施策の体系 マネジメント方針	行政の説明責任に基づき、市民にとってわかりやすい情報の提供に努めることと、積極的に情報公開を推進すること。を追記する。
31	21	5 基本構想の推進にあたって	「効率的」な行政運営の推進を、「効率・効果的」に変える。つまり、効率を優先する中で、そのことが目的化してしまい、市民の効果が薄れる傾向がある。これは企業でもしかり。必ず、行政は効果を優先して評価できるマネジメントが必要である。
32	21	5 基本構想の推進にあたって	達成すべき目標の明確化と進行管理の実施～ここでも選択と集中の言葉があるが、いわゆる経営資源を集中することは行政として本当に良いのか？疑問である。
33	21	5 基本構想の推進にあたって	以下の2点について明記する ①刈谷市自治基本条例との連動＝住民自治のまちづくり ②行政の説明責任と情報公開の推進すること

基本計画(案)に対する意見

No.	ページ	区分	意見
1	全体	指標	指標の目標設定の考え方として、第7次総合計画と同じ指標が第8次総合計画にも多数あるが、前期実績を踏まえて目標設定されている。現状値に対してでは無く、前期計画の反省も踏まえ、計画や目標の重み付けをすべきではないか。
2	1～3	1 基本フレーム (1)人口の見通し	公共施設適正化や都市交通、集約型都市づくり、地域防災の施策を実質的なものにするため、「町丁別の人口」または「小学校区ごとの人口」の3区分別人口の実績値と将来値を国勢調査からグラフ化する。
3	1～3	1 基本フレーム (1)人口の見通し	子育て施策、教育行政、高齢者福祉分野で、将来を見据えた適切な事業展開をするためには、特定年齢人口の推計のグラフと分析を記載する。就学前人口、児童数、生徒数、生産年齢人口、前期高齢者人口、後期高齢者人口。
4	4	1 基本フレーム	4ページ目は、(2)財政フレームの見出しを新たに創設し、内閣府の「中長期の経済財政に関する試算」を活用するなどして前期5か年の財政の見通しを表やグラフを用いて記載する。令和10年度以降は見通しを説明する。財政フレームは、人口減少、超高齢社会に対応した都市構造への転換を長期的な視点に立って進めていくためには必要である
5	6	1 基本フレーム (2)土地利用計画 ②	沿道ゾーンは賑わいと、市民満足度、税収増加などに直結する。狭い範囲に絞りすぎではないか。 ※今川停車場線(総合運動公園付近など)、岡崎刈谷線のもう少し広範囲(野田新町付近)、国道419号線沿いの優良農地以外の部分など
6	8	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	若い世代や子育て世代への支援として、さまざまな施策を実施していただいています。が、子どもを社会で育てるという視点も必要かと思えます。本文と方向性4にその趣旨を述べて具体的な取り組みを主な取り組みに記載できるのであれば記載してはどうでしょうか。
7	8	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	重点戦略1に記載すべきか悩むところですが、ヤングケアの解消に向けて取り組んでいただきたい。判断が難しい面もあるかと思えますが、まずは、ヤングケアの実情を把握することが解決の道かとも思えますので、基本方針別計画にそのたりの内容を盛り込むこともひとつの案と考えます。
8	8	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	予想以上に子供が生まれなくなる可能性あり。思い切った施策を。
9	8	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	KPIに、子どもの教育分野においてスポーツ分野だけを指標とするのは偏っている。スポーツを好まない子もいるし、文化部があるように、スポーツがすべてではない。次回の児童生徒の意識や行動に関するアンケートでは「日頃から文化や芸術に親しむ機会がある児童生徒の割合」を出せる設問を創設する。今回は6つ目の指標として、仕方なくでも良いので、このKPIを使用することで10頁の方向性5において、主な取組に「文化芸術活動に親しむ機会の確保または充実」を追記する。コロナ禍で生涯学習の機会を喪失し、2022年は前回調査よりも39%もマイナスとなり、また文化協会の会員数の激減や高齢化などの実態から、課題意識を持つこと、そのための施策を立てる必要がある。
10	8	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	「方向性1の暮らし続けられる生活環境の整備」の主な取組「バリアフリーの推進」→「ユニバーサルデザインの推進」にしないか。バリアフリーが障害者と高齢者を対象としており限定的である。全ての人を対象とされていることで、よりフェアで利便性と心地よい住環境の整備を目指すことができる。
11	8	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	安心して子育てをするには、コミュニティ形成の支援は必要不可欠である。子どもを家庭にだけ押し付けないこと、核家族化やコミュニティの希薄化の課題に触れ、社会全体で子どもを育てるまちづくりが求められていることを明記する。
12	9	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	方向性3: 男性の育児休暇制度の利用促進とあるが、取得率をどう上げるかの施策が不足している。子育て世帯への応援で欠かすことができないのが保育所問題である。乳児園化・幼児園をやめ、就学前までの一貫した保育園に戻すことを最大の目標にすべきである。

No.	ページ	区分	意見
13	9	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	「方向性4子どもを育てやすい環境の整備」の主な取組の、「子育て世代への給付や補助などによる支援の充実」→「すべての子どもを支援するための無償化(現物給付)や給付、補助の充実」に変更する
14	10	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	方向性5を教育環境の充実と多様な学びの提供」の内容部分「関係機関と連携し義務教育における質の高い教育を促進する」→「生きる力を育み、すべての子どもと教員が楽しく過ごせる学校づくりを促進し」
15	10	重点戦略1 若い世代や子育て世代への支援	主な取組で、以下を追記する ①子どもの権利を尊重したまちづくりの推進 ②教員の働き方改革の促進 ③文化芸術活動に親しむ機会の確保または充実
16	11	重点戦略2 魅力ある働く場の創出	指標: 個人1人当たりの所得を●●万→○○万/＼などの魅力を感じる項目などが欲しい
17	11	重点戦略2 魅力ある働く場の創出	KPIに、事業所数を用いる。本市は製造業が盛んな自治体ではあるが、方向性1においても企業・創業支援があげられ、イノベーションやSOHOなど多様な創業が見込まれることから、事業所数が増えることは戦略に合致すると考えるため
18	12	重点戦略2 魅力ある働く場の創出	人口構造の変化と高齢社会の中で、地域力が大きく低下しているのは、周知の事実。今年10月から施行される「労働者協同組合法」は協同労働を通じて、地域の問題課題の解決を仕事として解決する仕組みとして、大きな可能性を秘めている。公・協・私のくくりで、私企業はどうしても利潤を生み出さないといけない。協(協同組合、NPOなど非営利組織)は、目的の達成のために利他の組織であるので、公と連携がしやすい。今後はこのように、考えて行かないと、いつまでもボランティア活動だけでは無理。
19	11・38	重点戦略2 魅力ある働く場の創出	産業の振興及び担い手の確保 現在の計画では、大手企業が魅力を感じないのではないか(工業用地、道路・物流ネットワークの強化未来技術を活用した社会実験、事業承継に対する支援) 下記に豊田市の総合計画を添付 ●成長が期待できる分野への投資や研究開発機能の強化を促すなど、将来の産業拠点として生産・研究機能等の一層の高度化を図ります。 ●事業化までの課題である「場所」、「金」、「機会」の支援を充実することで、市内外からのスタートアップの誘発、誘引を促進します。 ●オープンイノベーション※7等の機会を提供することで、「自動車+α」を含めた新たな事業展開を促進します。 ●市内中小企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)に関する取組を促進します
20	13	重点戦略3 にぎわいの創出	刈谷駅周辺のにぎわいづくりとなっていますが、内容が北口周辺に偏っていると感じます。南口でのにぎわいづくりについても触れていただきたい。
21	13	重点戦略3 にぎわいの創出	評価指標 歴史に興味を持つ市民の割合30,4%(2022)→40%(2032)何故、大事な指標なのか? 公園緑地課: 魅力ある公園造り構想中の亀城公園の歴史公園課は、市外からの人を見込んだ賑わいを目的に進めてはいない。
22	13	重点戦略3 にぎわいの創出	方向性1:いつも「にぎわいの創出」というが、銀座AB地区は賑わっていない。風が強くて老人は吹き飛ばされている。今回の提起でも「ウイングデッキの整備」がなぜにぎわいづくりになるのか、理解できない。通勤に便利なら分かるが、空中を行き来するとより、地元の商店にはいかないのではないか?ウイングデッキは外した方がよい。
23	14	重点戦略3 にぎわいの創出	方向性3:歴史・物産資源を生かしたにぎわいづくり～景観条例を策定し、景観を守る、生かすようにすべき。また、無理に展望のない刈谷城築城を考えるのではなく、真面目に地域資源を見る。例えば、まちお風呂屋さん、豊田喜一郎が最初につくった向上など、散策するには良い場所がまだ残っている。このような場を保護して、人が行き来する価値を生み出す方向へ向かうべき。亀城公園周辺に集中するのは、もったいない。選択と集中の方向が間違っている。
24	14	重点戦略3 にぎわいの創出	「方向性3歴史・文化資源をいかしたにぎわいづくり」の主な取組に刈谷市駅前再開発明記する

No.	ページ	区分	意見
25	15	重点戦略4 誰もが活躍できる 社会の形成	方向性1:市民一人ひとりが支えあう地域共生社会の形成～地域の問題課題を「よって たかって」解決するような、地域でプラットフォームをつくるべき。そこへ様々な団体や主 体が寄り合うことから始まる。共通の問題や課題をリアルに直視することで各主体との連 携や協働が始まる。そこから新しい価値が生まれ、人と人がふれあい、経済も回る。
26	15	重点戦略4 誰もが活躍できる 社会の形成	「方向性1市民一人ひとりが支え合う地域共生社会の形成」の主な取組に、在宅生活を 継続していくための生活支援体制整備を明記する
27	16	重点戦略4 誰もが活躍できる 社会の形成	方向性3:今までの考え方を転換してほしい。市民活動を創るくらいの気持ちでないと進 まない。先にもいったが、労働者協同組合の形成などは有効。自治会が労働者協同組 合を作って、種々の取組みをワークとしている事例もあり、今後研究と実験などを早急 にする必要がある。これも、待ってはいは何も始まらない。市のリードが必要である。
28	17	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	指標には、CO2排出削減割合は、市の事務事業での目標値であるが、市域全体での削 減目標の方が重要である。(市での補助制度等へも繋げる為)
29	17	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	方向性1:災害からのレジリエンスを考える場合、地域へ入るボランティアの数が多くない と復興も進まない。近年、災害の中で「受援力」があるないで大きく差が出る。刈谷市は 受援力が少ないと見ている。ハードだけでダメなので、日ごろからの連携顔見世が必要 だが限られた人だけでは広がらない。常に外部との連携に心がけて、いざとなったら動け る組織をつくること。
30	18	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	方向性2:①「安全安心」に変えること②側溝のふた掛けは、もっとピッチを上げて行っ べき。身近な危険地帯である。何度も子どもが落ちた側溝でも、中々設置されない場所が 多数ある。まず足元からしっかりしてほしい。側溝のふた掛けも項目に入れる。
31	18	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	方向性3:「市民発電所」づくりを入れる。太陽光ゼロ設置可能な取り組みを。市内公共 施設全部をこれで賄う。屋根貸した市民は電気代が安くなる、賃貸でも可能な仕組みを つくり、電気の地産地消、利益は地域通貨(商品券)で分配して循環型の経済を回すよ うにする。ぜひ取組んでほしい。
32	18	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	方向性3:農業と太陽光をマッチングした「ソーラーシェアリング」も重点項目になるの ではないか。近年、農水省でも2050年有機農産物を100万 ^{トン} 目標を打ち出した。その 具体化が無いが、ソーラーシェアリングはその一つになると考える。売電収入も含めて農 業を行い、収穫もできるという。研究の予知は大いにある。
33	18	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	方向性4:「かりまる」市内巡回バスは、ミニバスまでは無料。その他の交通体系は個人 の利用もあるので、一部有料も研究課題に。いずれにしても、かりまるは回数も増やし、 日常的な人の移動をつくるために便利な場所に乗降場をつくる。
34	18	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	方向性4:市営住宅を太陽光発電+ZEHハウスにする。市内居住者を増やすために も、真剣に考える必要がある。また、長寿命化も考えて30年持つ住宅は、ZEH部屋へ 改装し、太陽光もセットするようにする。暖かいので、無駄なエネルギーも使わず、高齢 者のヒートショックも緩和される。安全・安心の暮らしに住宅問題を切り離してならない。 公営住宅を増設して、低所得者、高齢者が命の最後まで安心して暮らせるまちづくりを 重点に置く必要がある。
35	18	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	方向性4:タクシー乗車券の拡充と南北に長い移動に必要な枚数を提供する。現状36 枚配布で60%の利用率であるが、北部の住民は総合病院へ行くだけでなくなくなってしまう。 公平性を担保しつつ、距離により困っている人も多いのも事実。解決する方法を考え てほしい。また、直接地域の交通事業者が関わられるように、するためにもこの方が一人 ひとりの多様な要望(体調や障害など)に合わせられる。ぜひ50枚は目指してほしい。ま た、窓口の混乱は解消すべき。
36	18	重点戦略5 安全に暮らし続け られる環境の整備	「方向性2安心安全に暮らせる地域の形成」の主な取組の「歩行空間のバリアフリー化」 →「歩行空間のユニバーサルデザインの推進」に変える 23頁の123番の施策と方針を 合わせるため

No.	ページ	区分	意見
37	19	3 基本方針別計画	基本方針別計画の体系図のイメージは理解するが、まちづくりの主要課題(構想のP14)や重点戦略および重点戦略の視点1・2(計画のP7)が政策にどう関連付けられているのかを明確にすべき。(まち・ひと・しごと創生総合戦略の関連も不明確) <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの主要課題とまちづくりの基本方針1～4との関連。 ・まちづくりの主要課題と基本方針別計画との関連。 ・まちづくりの基本方針と重点戦略との関連。およびマネジメント方針 ・重点戦略の視点1・2と重点戦略の主な取り組みとの関連。 ・基本方針別計画とマネジメント方針項目の関連。
38	19	3 基本方針別計画	重要戦略1～5で視点①未来技術の活用、視点②刈谷の魅力発信と書かれているが、それぞれの計画にどう反映されているのか、解らない。
39	19	3 基本方針別計画(2)	マネジメント方針に、「5 情報公開の推進」を追記する。
40	20	1-1 市街地・住環境	中心市街地における駐車場確保の困難さ、不便さの現状が認識されていない。駐車場の確保はにぎわいの創出に大きく影響し、まちなか居住の住みやすさの実感に大きく左右する→施策の内容で反映させる
41	20	1-1 市街地・住環境	市街地における緑地が少ないことの課題認識がされていない。→施策で新たな緑の創出を加える
42	22	1-2 道路・交通	指標・車、自転車、歩行者同列の指標。それぞれの指標を基に施策展開する必要がある。
43	24	1-3 公園緑地・緑化	街路樹の意義や効果について市民理解が進んでいない現状がある→施策で街路樹の管理や選定のあり方の検討を追加する
44	28	1-5 上下水道	指標:安定収入確保に向けた指標や劣化に対する更新率などを目標とすべきではないか?
45	30	2-1 学校教育	指標:目指す姿の中には、確かな学力があるが、それを目標とすべきではないか。
46	30	2-1 学校教育	めざす姿「学校教育を通して、すべての児童生徒が楽しく学習し…」すべてのを追記する
47	30	2-1 学校教育	施策の背景の1番目の課題部分「確かな学力の定着」だけで問題解決能力は育まれない。「主体的に学ぶ力」も必要であり、追記する
48	30	2-1 学校教育	施策の背景の2番目の課題部分 現状と噛み合っていない。心、語学、学力などに問題を抱えているだけが、児童生徒間の人間関係が希薄化している原因ではない。教員が子どもの意見を尊重し、自由に話し合える学校づくりが求められていることを明記する
49	30	2-1 学校教育	施策の背景の4番目の課題部分 ユニバーサルデザインや環境負荷に配慮した改修をすることについても追記する
50	31	2-1 学校教育	「211 教育内容の充実」には、特別支援教育の充実の取り組みも追記すべき。また、「212 児童生徒へのきめ細かな対応」の中に「②障害のある児童生徒や外国人生徒への支援の充実」とあるが、障害者支援と外国人支援は特性が異なるので、支援内容を項目を分けて掲載したほうが良い。
51	31	2-1 学校教育	211教育内容の充実①に「平和教育」を追記する。平和で命や人権が守られていることが子どもの健やかな成長や学びを保障するための大前提である。平和教育は国際理解とは違う。
52	31	2-1 学校教育	211教育の内容の充実②に「個別習熟度に合わせた学習のしくみ」を追記
53	31	2-1 学校教育	216教職員の働き方改革の取組と少人数学級に向けての教職員の人材確保

No.	ページ	区分	意見
54	31	2-1 学校教育	212児童生徒へのきめ細やかな対応①教育相談体制の充実と合わせて、居場所づくりを拡充することを追記
55	32	2-2 生涯学習・青少年教育	施策の背景の4番目、ネット依存と、子ども若者の問題は分ける。子ども若者の問題がさもネットが原因であるかのように、受け止められる。課題については、子ども若者の相談事業の対象者は概ね40歳までとなっており、青少年という言い方は適さないのではない。子ども若者の支援は、33頁の施策の内容において、224の新たな創設が必要し、年齢で切らない支援体制が求められます。ということが必要だ。
56	33	2-2 生涯学習・青少年教育	221に④として新たな図書館のあり方を検討し、創造的な図書館の環境整備を行う。を追記する。
57	34	2-3 スポーツ	成人のスポーツ実施率1.5倍・施策233。学校のスポーツ開放すでに利用者過剰。対策がおぼろげ。
58	35	2-3 スポーツ	市内のあちこちで行っている、「スケードボード」場をつくる時期。新しいスポーツですがオリンピックでも行っており、しかるべき指導者がついて開催できるようにしてゆく。
59	36	2-4 歴史・文化・観光交流	36ページ37ページ イベントでの集客は理解できるが、単発でなくリピーター獲得の方策を早期に明言してほしい。
60	38	3-1 商工業	フリーランスや一人親方事業主など、零細の事業者へのコロナ支援など充実をすべき。
61	38	3-1 商工業	施策の背景と課題に、若者が出店の際には、近隣市町に流出してしまう現状と、課題としては、物件の少なさや価格の高さ、若者に魅力を感じてもらいにくい街並みや雰囲気がある。ことを明記。
62	39	3-1 商工業	車の電動化に伴う技術者育成、企業誘致、企業育成、指導を強化すべし
63	39	3-1 商工業	312若者が出店しやすい支援制度の創設
64	40	3-2 農業	地元農産物＝安全と言えるか？安全な農産物とは何をさすのかあいまい。施策の内容・具体的事業が知りたい。
65	40	3-2 農業	321:持続可能な農業経営の推進②の後継者が育つ農業、新規農業者の育成に大きく舵を切った支援策を盛り込むこと。
66	40	3-2 農業	施策の背景の上から4番目の現状について「今後、各国との貿易交渉の影響により、農産物の輸入が増えるおそれがあり、食料自給率の向上が求められます。」に変える。課題について、「地元農産物や有機農産物のニーズの高まりを受け・・・」有機農産物を追記する。同様に「 ■国のみどりの食料システム戦略に基づき、有機農業の農地を増やす必要があります。 」を追記。
67	41	3-2 農業	324を創設し、食料自給率の向上と有機農業の推進 ①地産地消や有機農業を推進する ということをより具体化して記載する
68	42	3-3 環境	温暖化防止に待ったなしの対策を。
69	45	4-1 子育て支援	416を創設し、「すべての子どもたちの支援の推進」とし、415の④の子ども医療費を416に持ってくる。416は①子ども医療費の無料化の拡充 まずは②中学生の給食費の無償化や第2子以降の給食の無償化 ③高校、大学、専門学校の給付型の奨学金制度
70	46	4-2 健康づくり	施策の背景上から3番目の課題について、「ワクチンは副反応もあることから、接種の判断をするための適切な情報提供が必要です。」を追記

No.	ページ	区分	意見
71	47	4-2 健康づくり	422の①予防接種の重要性の啓発を行うとともに、副反応についても適正な情報提供を行う
72	48	4-3 地域福祉	施策の背景の上から5番目の課題について、■年齢に関わらず切れ目のない支援体制が必要であり、特にスクールソーシャルワーカーの設置が急がれます。
73	50	4-4 高齢者福祉	介護サービスの充実:多様な介護サービスのニーズに対応できる様に、必要な介護サービスの確保に取り組む。と書かれている。こんなに簡単にまとめているのか？ この施策を取り上げた背景も無いので、必要な介護サービスの確保は、待機者を出さない事を前提としているのかも解らない。(施策の背景に、例えば、介護サービスを受けたくても、受け皿が無くて受けられない事が課題とあれば未だいいが)
74	50	4-4 高齢者福祉	施策の背景の現状に「介護人材が不足しています」課題に■全産業平均との格差解消のための処遇改善 ■相談窓口の設置
75	51	4-4 高齢者福祉	高齢者への補聴器購入補助の実施:高齢化に伴い耳の聞こえが低下している方が増えています。やはり活動量が減って、人と接するのが億劫になり、体力も低下していると聴きます。刈谷市も補助の導入をする時期になっていると考えるので、実施を。
76	52	4-5 障害児・者福祉	施策の背景の上から1番目の課題に■地域で自立して暮らしていくためには、人材確保に努めなければなりません。53頁の451の⑤で人材確保について記載
77	53	4-5 障害児・者福祉	連携・協働の考え方で少し触れられてはいるが、障がい者の家族を支えたり、親なき後をとともに考える活動を、具体的施策に盛り込むべき。
78	57	4-7 生活安全	高齢者を狙った特殊詐欺対策が抜けている。
79	59	4-8 共存・協働	施策の内容481は男女における性差別解消に向けての取組のみになっている。刈谷市男女共同参画推進条例の基本理念である、「性別にかかわらず個人としての人権が尊重されること・性別にかかわらず全ての人が、意思決定の場に参画する機会が確保されること」のための施策が見られない。④を創設し。性の多様性への理解促進のための取組をします。を追記する
80	60	4 マネジメント方針における取組	情報管理のリスクの高まりと、それに対する取り組みを記載するの必要を感じます。
81	60	4 マネジメント方針における取組	(1)の中で、情報セキュリティと個人情報保護の必要性和取組を明記する。
82	61	4 マネジメント方針における取組	(5)行政の説明責任と情報公開の推進についての項目を追加する